ささやま

編集責任者

橋上中学校

努力は報われるとは限らない

「努力は報われるとは限らない、でも努力すること自体が素晴らしい」

「雨は夜更け過ぎに雪へと変わるだろう・・・」今年も山下達郎さんのクリスマス・イブが街角から流れてきはじめ、冬を感じる季節になりました。

今学期はたくさんの行事がありました。保・小・中の運動会にはじまり音楽祭・文化祭、その間にテニスの大会や、陸上競技などたくさんの大会があり、感動や感激、喜びや悔しさを体験したことと思います。

さて、トップ・アスリートによる「夢先生」の講演では元Ｋ１ボクサー選手の富平　辰文さんの「夢を持つことの大切さ」と題して講演を聞くことができました。その中で「努力は報われるとは限らない、でも努力することそれ自体が素晴らしい。」「夢を持つことで頑張ってこられた」との言葉に、はっとさせられました。

僕たち教師は時々「夢は必ずかなえられる」と子どもたちに言いながら、どこか腑に落ちない自分自身の存在に気づかされていたからです。

そんな思いと同時に、中学３年生の学級主任をしていた時のことを思い出しました。当時、高校入試を目前にして、一生懸命頑張っている子どもたちに対して、ここで頑張ればきっといい結果が出るからなどと激励のことばをかけていました。その中の一人に一生懸命努力しているはずなのにテストの点数や成績に表れない生徒がいました。頑張っているはずなのにどうしてだろう。本人も真剣に悩んでいる様子です。「生活日誌」からもそんな様子が見て取れます。その時は、勉強の方法を工夫しようだとかありきたりのアドバイスをしたような記憶があります。該当の子どもは怪訝な顔をしながらも頷いていました。

今思い返すと、どうしてあの時、富平さんのように「先生はあなたが努力していることを知っているよ。今回は確かにテストの点には現れなかったけれど、努力している姿はかっこよかったぞ！そのこと自体が素晴らしいことだと思う。」と事実をそのまま言えなかったのだろうかと思います。その方がもう一度頑張ってみようという気持ちになったはずです。努力は直接自分の期待していることに成果を出すとは限りません。しかし、努力することは、自分自身を成長させることは事実です。そういう意味で、「努力は必ず報われる。」のでしょう。

橋上中学校の三年生は今まさに高校受験の厳しさのまっただ中にいます。放課後は受験に備えて補習を行っていますが、どの生徒も真剣そのものです。自分の進路に向かって一生懸命に努力を重ねている姿はとても輝いています。その姿を、一、二年生も見てほしいと思います。

そして、努力することの素晴らしさを感じてほしいと思います。

今年も運動会、部活動をはじめ様々な教育活動に保護者、地域の方々の支援を頂きました。本当にありがとうございました。

新しい年が皆様にとって幸多き年でありますことをお祈りいたします。

冬休みの生活について

もうすぐ、冬休みになります。この冬休みは、今まで学んだことの復習をするのに絶好の機会です。しかし、この時期は、大晦日、お正月、年末年始と、気がゆるんだり夜更かしが続いたりする誘惑が多いと思います。一度乱れた生活習慣を、元に戻すのはなかなか大変です。そこで、ぜひ、守って欲しいのが「休むのは２日間まで」というルールです。３日間以上休むと、頭までなまってしまいます。お休みは、大晦日、元日の２日間にとどめておきましょう。

特に３年生は、高校受験が目の前です。だからといって、夜遅くまで勉強すればよいというわけではありません。夜は１０時ごろまでが理想です。

一年の計は元旦にあり

年の初めにぜひおこなって欲しいのが、家族で新年の抱負について語ることです。普段こうした機会はなかなかないですし、「一年の計は元旦にあり」とも言います。気がゆるみやすいお正月だからこそ、気を引き締める機会を大切にしたいですね。

そもそも元旦とは、元日の朝を表します。ですから、一年の計は元日の朝にあるということになります。いくら元日だからといって、お昼まで寝るのは好ましくありません。元日の朝にしっかり起きられることが、一年の始まりとしてとても大切です。

夢先生　富平さんと作戦会議

高知新聞より

元キックボクサー富平さん

「諦めず、びびらず」

宿毛・橋上小中で夢授業

富平辰文さん＝左上＝の授業を聞く橋上中学校の生徒たち（宿毛市橋上町奥奈路）

【宿毛】元プロキックボクサーの富平辰文さん(39)＝大阪市＝がこのほど、宿毛市の橋上中学校を訪れ、同校と橋上小学校の全児童生徒17人の前で夢を持つことの大切さを語った。

富平さんは体育館で子どもらと運動した後、教室へ。経験した二つの敗戦について語った。「チャンピオンになりたい」と始めた空手での初試合。途中で闘うことをやめてしまい、「諦めることの悔しさ」を味わった。

もう一つはプロになった後、格闘技イベント「K－1」の２００５年決勝。体重が60キロ大きいボブ・サップ選手を相手に敗れたが、最後まで戦い抜いた。「二つは内容が全然違う。チャンピオンにはなれなくても、夢を持つことで頑張ってこられた。諦めないこと、失敗しそうでもびびらないことが大事」と語った。

その後は中学生が「クリエーターになりたい」「いろんな言語を話して旅をしたい」などそれぞれの夢を披露。1年生の藤岡賢生君は「お父さんも消防士なので、消防士になりたい」と発表した。

授業は、日本サッカー協会が「夢教室」と題して全国で行っている。（笹島康仁）